

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
アフター5スター賞	2018/8/29	SIII	大井	1200m	ハイペース	良	展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	キシミープリンス	牡10	57	張田	ノーリーズン	ロベルト系	フジキセキ	サンデー系	C	C	C	C	C	C		
2	2	ゴードー	牡10	57	佐藤友	プレシヤスカフェ	ノーザン系	コノミテイオー	ザテトラーク系	D	B	B	C	C	C		
	3	キャンドルグラス	牡4	57	赤岡	サウスヴィグラス	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	A	B	B	B	B	△1	
3	4	スウィーブアウェイ	牡7	55	柏木	スウェプトオーヴァーボード	ミスプロ系	Woodman	ミスプロ系	D	C	C	C	C	C		
	5	クルセイズスピリツ	牡3	55	西	サウスヴィグラス	ミスプロ系	バブルガムフェロー	サンデー系	B	B	B	B	B	B	▲	
4	6	ミヤジマッキー	牡8	57	瀧川	スパイクユール	サンデー系	マルゼンスキー	ノーザン系	D	B	D	C	C	C		
	7	サマーダイアリー	牝4	53	矢野	ケイムホーム	ミスプロ系	ネオユニヴァース	サンデー系	D	B	B	B	C	B	×1	
5	8	スアデラ	牝5	55	繁田	ゴールドアリュール	サンデー系	ラムタラ	ノーザン系	D	B	C	C	C	C		
	9	タイセイラナキラ	牝5	53	吉原	カネヒキリ	サンデー系	エプロス	サンデー系	B	A	B	B	B	B	△3	
6	10	コーリンベリー	牝7	55	的場文	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ミシットライブ	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	△2	
	11	プリサイスキング	牡6	55	達城	プリサイスエンド	ミスプロ系	エルハーブ	ミスプロ系	D	C	B	B	C	C		
7	12	キタサンミカツキ	牡8	59	森	キングヘイロー	ノーザン系	サクラバクシンオー	ナスルーラ系	A	A	A	A	A	B	◎	
	13	アピア	セ7	58	御神本	ファスリエフ	ノーザン系	アグネスタキオン	サンデー系	B	A	B	B	B	B	○	
8	14	マルモロイヤル	牡7	53	笠野	サムライハート	サンデー系	フサイチコンコルド	ノーザン系	D	C	B	B	C	C		
	15	サトノタイガー	牡10	57	笹川	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	B	C	C	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
コーリ タイセ アピア キタサ マルモ サトノ ハイペース	<p>出走馬を見渡すと、行き切れないと脆いゴードー、強気な西騎手が騎乗するクルセイズスピリツ、快速スアデラ、JRA時代から「スナナリ競馬」が好走条件のタイセイラナキラ、的場文男騎手がスタートからガシガシと追う姿しか想像できないコーリンベリー、好位抜け出しがウリのアピア…と逃げ、先行勢がズラリとそろった。1番人気のキタサンミカツキは絶好枠ともいえる7枠12番。直線はほとんど何もしないで浮上してくるだろう。このレースの問題は相手探し。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はすでに書いた通り、キタサンミカツキ。今回は逃げ、先行勢が勝手にやりあって何頭かは自滅しそうで、中団付近からいつもの脚が使えれば、ゴール手前では自然と先頭に立っているはず。近走は1400m中心に使われているが、番组的に使うレースがないため、本来は大井1200mがベスト条件。(以下省略)</p>	回顧 次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	キスミープリンス		1200mは明らかに適性外の条件。追走で精いっぱいなのでは。		
2	2	ゴードー		すんなりと行けなく脆い面があるので、ここは外からスピード上位の逃げ、先行勢に被されて何も出来ずに終わるだろう。		
	3	キャンドルグラス	△1	ウインタースプリントではアピアと接戦歴があり、今年の東京スプリントで4着に健闘したサブノジュニアを下して勝利。大井1200mはあの一度しか走っていないが、この条件なら重賞級的能力を秘めているのではないかと。間隔が空いたのは気になるが、調教の動きは良く、能力を出し切れると判断したい。前走アフター5スター賞トライアルでは見せ場なく10着に敗退。年齢的にガラリ一変があるとは思えず、苦戦濃厚では。		
3	4	スウィープアウェイ		前走習志野きらっとスプリントでは飛ばすだけ飛ばしたフラットライナーズ、ラディヴィナらを外々から早めに追いかける損や役回り。見た目では完敗に見えたかもしれないが、本馬のほうが明らかに厳しい展開で、アピアとの差は意外とないかもしれない。		
	5	クルセイダスピリット	▲	オープン特別で苦戦続きの現状。後方でじっくりと脚を溜めて直線でバテた馬を交わすだけのレースになるのでは。		
4	6	ミヤジマッキー		ここにきてB1→A2と連勝し、いかにも本格化の兆し。今の勢いなら時計をもう少し詰められそうで、上位勢との斤量差を考えても決してノーチャンスではないだろう。		
	7	サマーダイアリー	×1	17年習志野きらっとスプリント1着以降、歯車が狂ってしまい、見せ場のない走りが続いている。近走はオープン特別でも勝ち切れない現状。条件的にもベストとはいええず、苦戦必至では。		
5	8	スアデラ		3走前の交流戦が破格の強さ。時計的にも重賞級なのは間違いないが、その後の2戦が控えてパフォーマンスダウン。JRA時代から一本調子な面があるため、がむしゃらにハナを奪い切れば、粘り込みがあってもいいが、中途半端に控えると近2走同様に詰めの甘さを見せそう。		
	9	タイセイラナキラ	△3	条件好転で巻き返しの余地あり。さすがに一時期の勢いはないものの、昨年のJBCスプリント6着馬。当時並みのパフォーマンスを出せれば、このメンバーなら好勝負に持ち込めるだろう。問題はその力を出せるかどうか。一本調子な面がある上、間隔が空いての一戦。力を出し切れる保証はない。		
6	10	コーリンベリー	△2	一時期の不振を脱したとはいえ、前走でマルモロロイヤルらと差がなかった馬。レースセンスがあり、相手なりに走る面はあるが、人気と好走確率のバランスを考えた時、期待値の低い馬といえるのでは（本馬を押さえるならマルモロロイヤルも押さえるべきだろう）。		
	11	プリサイスキング		今回は逃げ、先行勢が勝手にやりあって何頭かは自滅しそうで、中団付近からいつもの脚が使えれば、ゴール手前では自然と先頭に立っているはず。近走は1400m中心に使われているが、番组的に使うレースがないため、本来は大井1200mがベスト条件。連覇の可能性は80%くらいある。		
7	12	キタサンミカツキ	◎	本質的に1000mがベストだが、近走は押さえも利くようになっており、1200mだからといってパフォーマンスが大きく落ちることはないはず。実際、昨年の同レースでは勝ち馬キタサンミカツキから0.3秒差の3着に好走。対キタサンミカツキでは分が悪くてもほかの馬との比較では能力上位と見ていい。		
	13	アピア	○	昨年の東京盃では勝ち馬キタサンミカツキから1.6秒も離されての10着。上位とは斤量差があるとはいえ、重賞では荷が重いのでは。		
8	14	マルモロロイヤル		14年のアフター5スター賞勝ち馬も、近走は衰えが顕著。苦戦必至だろう。		
	15	サトノタイガー				